

Summary

The main results of this year's archaeological survey are summarized as follows.

In the investigation (survey area 1823) with the disaster recovery construction of the Museum of Engineering Faculty in the Kurokami south area, the excavation for the installation of the reinforced steel frame was carried out, brick walls, pillar holes which seemed to be scaffold marks and flues of the old boiler, etc. were confirmed.

In the excavation in the Honjo north area (survey area 1904), ditches in the early-modern period were detected, and it became clear that many structural remnants of Japan's ancient period were well preserved in the south side of the hospital area. In addition, in the investigation of the north edge of the hospital area (2003 sites), a small number of structural remnants of this period were confirmed.

In the excavation and research in the Honjo central area (survey area 1911), various structural remnants such as ditches in the Kofun period, pit buildings, ditches, post holes and road in the ancient period, ditches in the early modern period, building foundations in the modern period, were detected.

Archaeological excavations before the construction of new water supply and drainage facilities have been increasing in recent years. These investigations, although limited planar excavation is forced, often provide useful information on the extent of soil deposition and the placement of structural remains over a wide area. By summarizing these results and past research information, changes in land use on university premises will become clear.

2020 년도에 실시된 조사는 발굴 조사 1 건, 입회 조사 23 건이었다. 주된 조사 결과는 다음과 같다.

구로카미 남지구 공학부 연구자료관 재해복구공사와 관계된 조사에서는 (1823 조사지점), 보강 철골설치에 따른 발굴조사가 실시되어, 벽돌제벽의 파기 흔적, 발판 흔적으로 생각되는 주혈, 구 보일러의 굴뚝등이 확인되었다.

작년도부터 계속하고 있는 혼쵸 북지구 옥외 환경정비등의 공사와 관계된 발굴조사 (1904 조사지점) 에서는 근세의 도랑이 검출된 외에도 병원대지 남쪽에서 고대 유구들이 양호한 상태로 포장되어 있는 것이 밝혀졌다. 또 병원부지 북쪽 끝에 위치하는 2003 지점의 조사에서는 고대 유구면이 일부 확인되었다. 혼쵸 중지구 라이프라인의 재생공사와 관계된 발굴조사 (1911 지점) 에서는 고분시대의 도랑, 고대 주거지, 도랑, 주혈, 도로터, 근세의 도랑, 근대 건물기초 등 여러가지 유구들이 검출되었다.

근년 증가 경향에 있는 이러한 급배수 설비 신설과 관계된 발굴조사에서는 유적의 넓은 범위에 걸친 조사는 제한되지만 광범위한 토층의 퇴적상황이나 지할 (地割: 고대의 거리구획) 의 배치상황을 아는데 있어 유익한 정보를 얻을 수 있는 경우가 많다. 이러한 성과와 과거의 조사 정보를 총괄하는 것으로 대학부지내 토지이용의 변천이 밝혀질 것이다.

구마모토지진으로 큰 피해를 입은 역사적 건조물의 복구에 관계된 조사는 금년도로 완료되며 내년도에는 이들 중요문화재군의 준공과 공개가 예정되어 있다. 이들의 활용을 위한 조사 보고서 작성과 사회적 보급을 지향한 여러가지 사업도 가까운 장래에 전개될 예정이다. 구마모토대학 매장문화재조사센터는 앞으로도 관계 각 기관의 이해와 협력 및 대학내 관련부국과의 연계 아래 본학의 재개발사업의 원활한 추진과 매장문화재의 보호를 위해 노력해 나가고자 한다.

또한 금년도부터 시작된 우루게지구 (宇留毛地区) 사면안전 대책공사구역은 오새키바찌기와 (小積橋際) 황혈묘군 (고분시대) 의 범위내에 해당하기 때문에 내년도 이후에는 유구군의 보전과 안전대책공사와의 양립이 과제이다. 이에 대해서도 관계 기관의 이해와 협력을 얻으면서 진행해 나가고자 한다.

付篇 1 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (R2.2.28～)

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則（平成16年4月1日制定）第9条第2項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 センターは、熊本大学（以下「本学」という。）に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、研究、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理・研究、保管及び保存に関すること。
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
- (4) 埋蔵文化財に係る考古学的知見等に基づく教育に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な事項

(職員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第7条に規定する委員会の推薦を受けて、学長が行う。

2 センター長は、センターの業務を掌理する。

3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第6条 専任教員の選考は、熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の意見を聴いて、学長が行う。

2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会の設置)

第7条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
 - (2) センターの専任教員
 - (3) 大学院教育学研究科から選出された教授又は准教授 1人
 - (4) 大学院人文社会科学部から選出された教授又は准教授 2人
 - (5) 大学院先端科学研究部から選出された教授又は准教授 2人
 - (6) 大学院生命科学研究部の医学系又は病院から選出された教授又は准教授 1人
 - (7) 大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授 各1人
 - (8) 発生医学研究所、生命資源研究・支援センター又はヒトレトロウイルス学共同研究センターから選出された教授又は准教授 1人
 - (9) 施設部施設管理課長
 - (10) その他センター長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第3号から第8号まで及び第10号の委員は、学長が委嘱する。
- 3 第1項第3号から第8号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第3号から第8号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
- 5 第1項第10号の委員の任期は、学長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(委員会の審議事項)

第9条 委員会は、センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年4月1日制定）第3条に定める事項を除く。）を審議する。

- (1) センターの業務に関すること。
- (2) センター長候補者の推薦に関すること。
- (3) 施設及び予算に関すること。
- (4) その他センターの管理運営に関すること。

(委員長)

第10条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第12条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第13条 センター及び委員会の事務は、施設部施設企画課において処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年10月1日から施行する。

2 国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年4月1日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年4月1日制定）は、廃止する。

3 この規則施行後、最初に任命されるセンター長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則により選考されたものとみなす。

4 この規則施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第3号及び第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

附 則（平成24年12月27日規則第142号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月13日規則第94号）

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成28年2月5日規則第9号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年3月1日規則第30号）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成28年9月23日規則第404号）

この規則は、平成28年9月23日から施行する。

附 則（平成29年3月31日規則第153号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年3月22日規則第177号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月28日規則第264号）

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年2月28日規則第14号）

この規則は、令和2年2月28日から施行する。

付篇2 2020年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1 埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞（併・大学院人文社会科学研究部教授）	伊藤 正彦（2017.4.1～）
＜専任教員＞	大坪 志子
	新里 亮人
	山野 ケン陽次郎
＜技術補佐員＞（2020年4月～2021年3月）	士野 雄貴
＜事務補佐員＞（2020年4月～2021年3月）	植田 裕子
＜室内作業員＞（2020年4月～2020年9月）	園田 智子
（2020年4月～2021年3月）	井上 裕美
	小山 正子
	首藤 優子
	末吉 美紀
	濱崎 清子
	増井 弘子
	江口 路
	鬼塚 美枝

（2020年10月～2021年3月）

2 埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	伊藤 正彦	（埋蔵文化財調査センター長）	
委員	中尾健一郎	（大学院人文社会科学研究部准教授）	任期（2020.4.1～2021.3.31）
	小畑 弘己	（大学院人文社会科学研究部教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	渡部 薫	（大学院人文社会科学研究部教授）	（2020.4.1～2021.3.31）
	望月 伸竜	（大学院先端科学研究部准教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	伊東 龍一	（大学院先端科学研究部教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	福田 孝一	（大学院生命科学研究部医学系教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	米田 哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	渡邊 高志	（大学院生命科学研究部薬学系教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	古嶋 昭博	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2019.4.1～2021.3.31）
	田鍋 和仁	（施設部施設管理課長）	
	大坪 志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	新里 亮人	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

3 令和2年度埋蔵文化財調査センター運営委員会 審議事項

第1回（2020年7月22日）

報告

- 1) 令和元年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について
- 2) 令和元年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について
- 3) その他

議題

- 1) 令和2年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について
- 2) 令和2年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について
- 3) 事務補佐員の雇用期限撤廃について
- 4) その他

第2回（2020年12月11日）

議題

宇留毛団地県道337号線沿い法面の安全対策と横穴群の保全対策（仮）に関する事業承認について

付篇3 熊本大学埋蔵文化財調査センター2020年度調査・研究活動記録

大坪志子

<論文等>

- ・「弥生早期・前期初の玉類—弥生勾玉の系譜を中心に—」『新・日韓交渉の考古学—弥生時代—（最終報告書 論考編）』「新・日韓交渉の考古学—弥生時代—」研究会「新・韓日の考古学—青銅器～原三国時代—」研究会, pp.576-596. 科学研究費基盤 (A)「新・日韓交渉の考古学—弥生時代—」(研究代表者: 武末純一).
- ・2「8. 九州地方」『縄文石器提要』考古調査ハンドブック20, (共著: 水ノ江和同・大坪志子・神川めぐみ), ニューサイエンス社, pp.449-469.
- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』26, 熊本大学埋蔵文化財調査センター (共著: 大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎・土野雄貴).

<科学研究費>

- ・『九州縄文時代後晩期における玉と縄文文化の実証的研究』平成29～令和2年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) (研究代表者).

<その他>

- ・河口コレクションおよび原村遺跡の調査指導助言 於: 鹿児島県立埋蔵文化財センター (2020年9月24日～25日)
- ・「坂本経堯先生と三万田東原遺跡」菊池市泗水公民館歴史講座 於: 菊池市泗水公民館 (2020年10月14日)
- ・長崎県原の辻遺跡調査指導委員会 於: 長崎県埋蔵文化財センター (2020年12月2日).

新里亮人

<論文等>

- ・「徳之島の窯業生産からみた琉球列島と韓半島の交流」『Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities』No22, KOREA MARITIME AND OCEAN UNIVERCITY, pp.21-46.
- ・「遺跡めぐり: 史跡 面縄貝塚」『Yaponesian』第2巻ふゆ号, pp.31-32.
- ・「2 遺跡解明へ, 新たな技術—陸上編—」山本宗立・高宮広土『魅惑の島々, 奄美群島—歴史・文化編—』北斗書房, pp.16-19.
- ・「3 遺跡解明へ, 新たな技術—海底編—」山本宗立・高宮広土『魅惑の島々, 奄美群島—歴史・文化編—』北斗書房, pp.20-22.
- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』26. 熊本大学埋蔵文化財センター (編集: 山野ケン陽次郎, 共著: 大坪志子・新里亮人・土野雄貴).

<科学研究費>

『琉球列島農耕伝播経路解明に向けた考古学的研究』令和2～6年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) (研究代表者).

<その他>

- ・第5回 水中遺跡調査検討委員会 (第2期) 及び第9回協力者会議 於: 東京都文化庁, 奈良県奈良文化財研究所平城宮跡資料館小講堂, 福岡県九州国立博物館第一会議室 (2020年6月29日) (オンライン参加).
- ・「発掘調査のてびき 水中遺跡調査編」(仮称) 令和2年 第1回編集会議 於: 福岡県九州国立博物館第一会議室, 第一会議室 (2020年8月5日) (オンライン参加).
- ・令和2年度徳之島三町水中遺跡調査指導委員会 於: 鹿児島県伊仙町歴史民俗資料館 (2020年8月27日) (オンライン参加).
- ・第10回水中遺跡調査検討委員会協力者会議 於: 奈良県奈良文化財研究所会議室414, 九州国立博物館第三会議室 (2020年9月1日～2日) (オンライン参加).
- ・ROV 調査及び映像遠隔配信の検討, 水中遺跡調査事例現場等 現地視察 於: 静岡県伊東市・南伊豆町・沼津市 (2020年10月26日～28日).

- ・徳之島町誌編纂 先史・古代・中世部会 於：鹿児島県徳之島町生涯学習センター3階工作室（2020年11月28日）。
- ・第11回水中遺跡調査検討委員会協力者会議 於：奈良県奈良文化財研究所会議室414，九州国立博物館第三会議室（2020年12月9日～10日）（オンライン参加）。
- ・第12回水中遺跡調査検討委員会協力者会議 於：東京都文化庁，奈良県奈良文化財研究所会議室414，九州国立博物館第一会議室（2021年2月9日～10日）（オンライン参加）。

山野ケン陽次郎

<論文等>

- ・「貝符製作技術の復元的研究—広田遺跡と奄美・沖縄諸島の事例から—」『日本考古学協会第86回総会 研究発表要旨』日本考古学協会. pp.64-65.（共著：山野ケン陽次郎・比嘉保信）。
- ・「黒髪地区における近代遺跡の調査事例」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』26. 熊本大学埋蔵文化財調査センター. pp.43-53.
- ・「広田遺跡出土貝符の製作技術の研究」『広田人の貝装飾～広田遺跡出土品里帰り展～』令和2年度地域の特色ある埋蔵文化財活用事業 広田遺跡ミュージアム会館5周年記念企画展. 広田遺跡ミュージアム.
- ・『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書』16 熊本大学埋蔵文化財調査センター（編集：山野ケン陽次郎）。
- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』26. 熊本大学埋蔵文化財センター（編集：山野ケン陽次郎，共著：大坪志子・新里亮人・土野雄貴）。

<科学研究費>

- ・『先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究』平成29～令和2年度科学研究費補助金 若手研究（B）（研究代表者）。
- ・『オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究』平成30年～令和2年度科学研究費補助金 国際共同研究加速基金 国際共同研究強化（B）（研究代表者：小野林太郎）（研究分担者：山野ケン陽次郎）。

<その他>

- ・「ミクロネシアの考古学」沖縄県立博物館第520回文化講座 於：沖縄県立博物館・美術館（2021年11月14日）（オンライン開催）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぼう27							
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報27							
副書名								
巻次								
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報							
シリーズ号	27							
編著者名	新井英永・大坪志子・土野雄貴・新里亮人・山野ケン陽次郎							
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2丁目39-1 TEL:096-342-3832 FAX:096-342-3832							
発行年月日	2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くろかみまち 黒髪町遺跡群 (1823地点)	くまもと県 熊本市 黒髪	431010	278	32° 48' 47"	130° 43' 46"	20201015 20210118 ～ 20210122	59.96㎡	学校敷地内 の復興事業 に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1904地点)	くまもと県 熊本市 ほんじょう 本庄	431010	285	32° 47' 46"	130° 42' 46"	20190708 ～ 継続中	6231.1㎡	病院敷地内 の開発事業 に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (2003地点)	くまもと県 熊本市 ほんじょう 本庄	431010	285	32° 47' 44"	130° 42' 42"	20200609 ～ 20200901	536.20㎡	病院敷地内 の開発事業 に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 (1911地点)	くまもと県 熊本市 ほんじょう 本庄	431010	285	32° 47' 39"	130° 42' 46"	20191209 ～ 20210106	796.87㎡	病院敷地内 の開発事業 に伴う
※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です								
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
くろかみまち 黒髪町遺跡群 (1823地点)	集落址 近代構造物	古代・近世・近代	耕作痕跡・建物基礎・ 旧ボイラー	土師器・須恵器・陶磁器・ 煉瓦		工学部研究 資料館		
ほんじょう 本庄遺跡 (1904地点)	集落址	縄文・古墳・古代・ 近世・近代	溝・竪穴建物跡・ 道路跡・土坑・建物基礎	縄文土器・土師器・須恵器・ 陶磁器・瓦・煉瓦・ ガラス製品				
ほんじょう 本庄遺跡 (2003地点)	集落址	古代・近代	竪穴建物跡・ピット・ 煉瓦建物跡	須恵器・土師器				
ほんじょう 本庄遺跡 (1911地点)	集落址	縄文・古墳・古代・ 近世・近代	溝・竪穴建物跡・ 道路跡・土坑・ピット・ 建物基礎	縄文土器・土師器・須恵器・ 陶磁器・瓦・煉瓦・ ガラス製品				
要約	<p>2020年度に実施された調査件数は、発掘調査1件、立会調査20件、自主的立会1件、熊本市の要請による立会2件であった。主な調査の結果は次のとおりである。</p> <p>黒髪南地区1823地点では、工学部研究資料館における災害復旧工事の計画変更（既設補強鉄骨の埋設）に伴って、工事の事前に調査が行なわれ、レンガ壁の掘方、足場痕とみられるピット、旧ボイラーの煙道等が確認された。本学における重要文化財の災害復旧工事に伴う埋蔵文化財調査は佳境を迎えている。2021年度の竣工を見据え、これら調査成果を社会に普及する取り組みが急務となる。</p> <p>2019年度に引き続き、本庄北地区1904調査地点では屋外環境整備に係る工事に伴う調査を実施した。浸透井戸や管路の埋設など施工深度の深い工事区域については緊急調査が必要となった。1708調査地点で検出された近世・近代の道路跡や溝を1904調査地点においても検出し、さらに敷地の南側には古代の遺構群が良好に包蔵されている状況を確認した。病院敷地北縁で実施された2003調査での検出遺構も含めて、本調査は本庄地区における土地利用の解明に資する成果となることを期待される。</p> <p>昨年度から継続している本庄中地区のライフライン再生工事に伴う1911調査では、本地区の東側、北側道路部分が本年度の調査対象となった。調査では、古墳時代（溝）、古代（竪穴建物、溝、ピット、道路跡）、近世（溝）、近代（建物基礎）の各種遺構が検出された。本事業に伴う調査は本年度で終了となり、今後、周辺における調査成果を踏まえた遺跡の評価が重要な課題となる。</p>							

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報27

—2020年度—

令和4年3月29日 印刷

令和4年3月31日 発行

編集兼発行者 熊本大学埋蔵文化財調査センター

熊本市中央区黒髪2-39-1

電話 096-342-3832

印刷所

シモダ印刷株式会社

**Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2022**